

番号	11	平成28年度公共事業再評価調書				担当課名 河川海岸整備課	
事業名	広域河川改修事業			事業主体	静岡県		
箇所名	にきゅうかせん せとがわ いしわきがわこうく (石脇川工区) (瀬戸川工区)			関係市町村	焼津市		
事業採択年度	平成 3 年度		計画期間	平成14年度 ~ 平成33年度			
用地着手年度	平成 16 年度		工事着手年度	平成 19 年度			
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H26年度	H27年度	H28年度見込	計	
	2,558		1,486	70	70	1,626	
事業概要	<p>(1)事業目的 石脇川工区では、河道拡幅や河床掘削などの河川改修により、昭和49年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、石脇川下流域の密集市街地区の浸水被害解消を図る。 瀬戸川工区では、河床掘削により、昭和49年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させるとともに、河川水位を低下させることで、内水被害の軽減を図る。</p> <p>(2)事業内容 ・石脇川工区：延長 0.79km (河床掘削工、護岸工)、橋梁工 5 橋 ・瀬戸川工区：延長 1.40km (河床掘削工)</p>						
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 斎場周辺では地盤高が低く排水不良による浸水被害が多発している他、下流部では支川の排水不良に伴う内水被害や波の遡上による越水被害が生じていることなどから、地元住民の工事に対する期待は大きく、早期改修が望まれている。</p> <p>石脇川工区の改修は、石脇川・高草川流域総合的治水対策アクションプランにも位置付けられており、早期改修が望まれている。</p> <p>(2)事業の投資効果 B/C=1.31 (総便益 1,569百万円/総費用 1,194百万円)</p> <p>(3)事業の進捗状況 石脇川工区については、当目小橋より下流の区間について改修が完了しており、当目小橋の架替も完了している。瀬戸川工区については、河口より整備を進め、石脇川合流地点までの河床掘削が完了している。</p> <p>平成28年度末進捗率 事業費：63.5% (1,626百万円/2,558百万円) 事業量：45.8% (1,002m/2,186m)</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】	<p>石脇川工区については、用地買収は概ね完了しており、引き続き当目小橋上流の断面狭小区間の改修を行う。瀬戸川工区についても、下流より引き続き整備を進め、早期の効果発現を図る。</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】	<p>新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 掘削による発生土を養浜材や海岸の津波対策等の他事業に流用して残土の有効活用を図るなどコスト削減を図る。</p>						
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続 ・ 見直し後継続 ・ 中止)する。</p> <p>(2)理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められる。地域住民の期待も大きく、浸水被害を解消するため、事業継続とする。</p>						

費用対効果算出説明書

二級河川瀬戸川(石脇川工区、瀬戸川工区)
 (「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省河川局 平成17年4月)

総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]+[施設の残存価値]	15.69億円
総費用 C	[建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費]	11.94億円
B / C		1.31

総便益

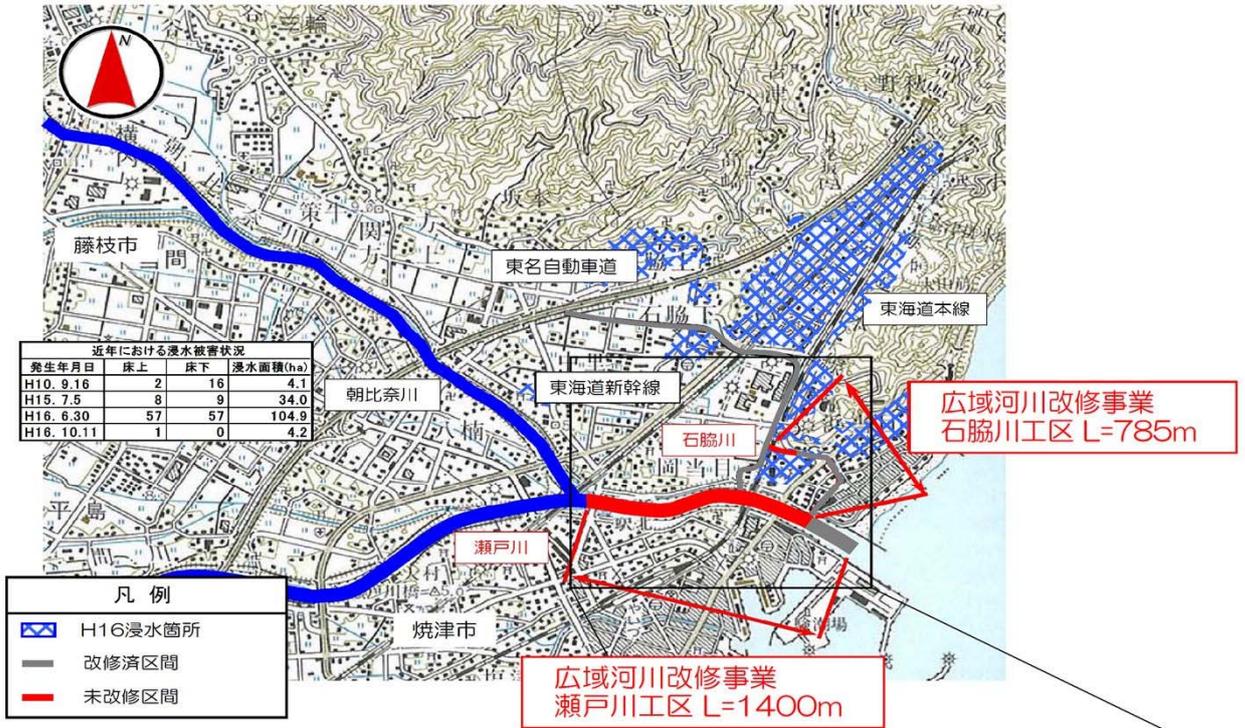
<p>○治水事業の有無による被害額の差分 年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間56年(整備期間6年+50年)とし、現在価値化する。</p>
<p>○施設等の残存価値 評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。</p>
<p>総便益 $B = \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n$ $= 15.15\text{億円} + 0.54\text{億円}$ $= 15.69\text{億円}$</p>

- ※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。
- ※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。
- ※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

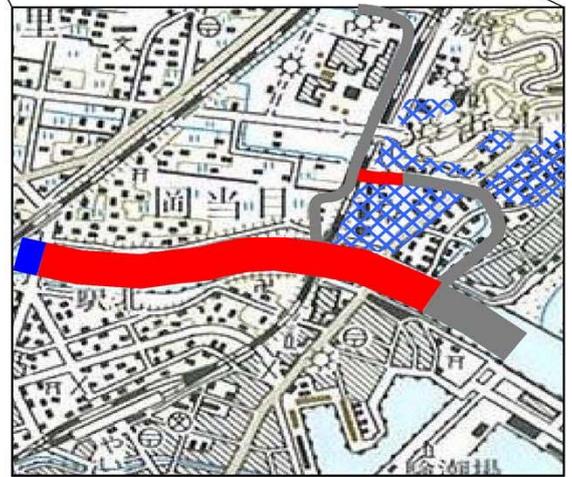
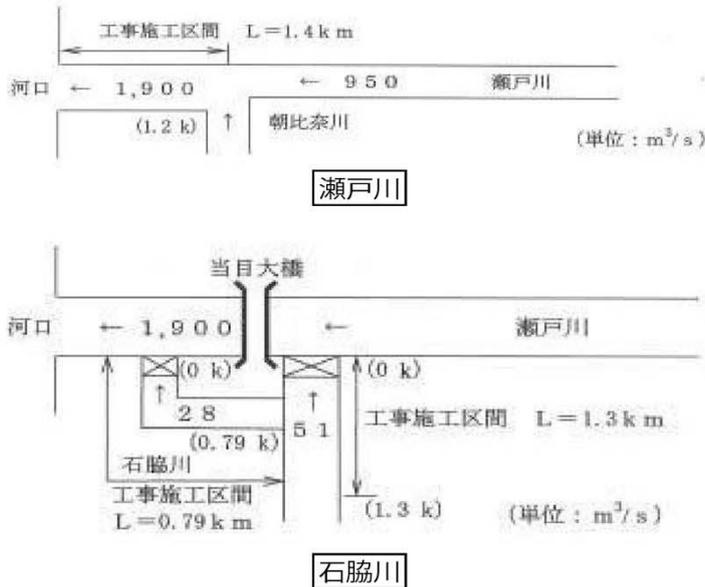
総費用

<p>○事業建設費 各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。</p>
<p>○評価期間内に必要な維持管理費 各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。 建設費の0.5%/年、評価対象期間：56年</p>
<p>総費用 $C = \sum \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$ $= 9.10\text{億円} + 2.84\text{億円}$ $= 11.94\text{億円}$</p>

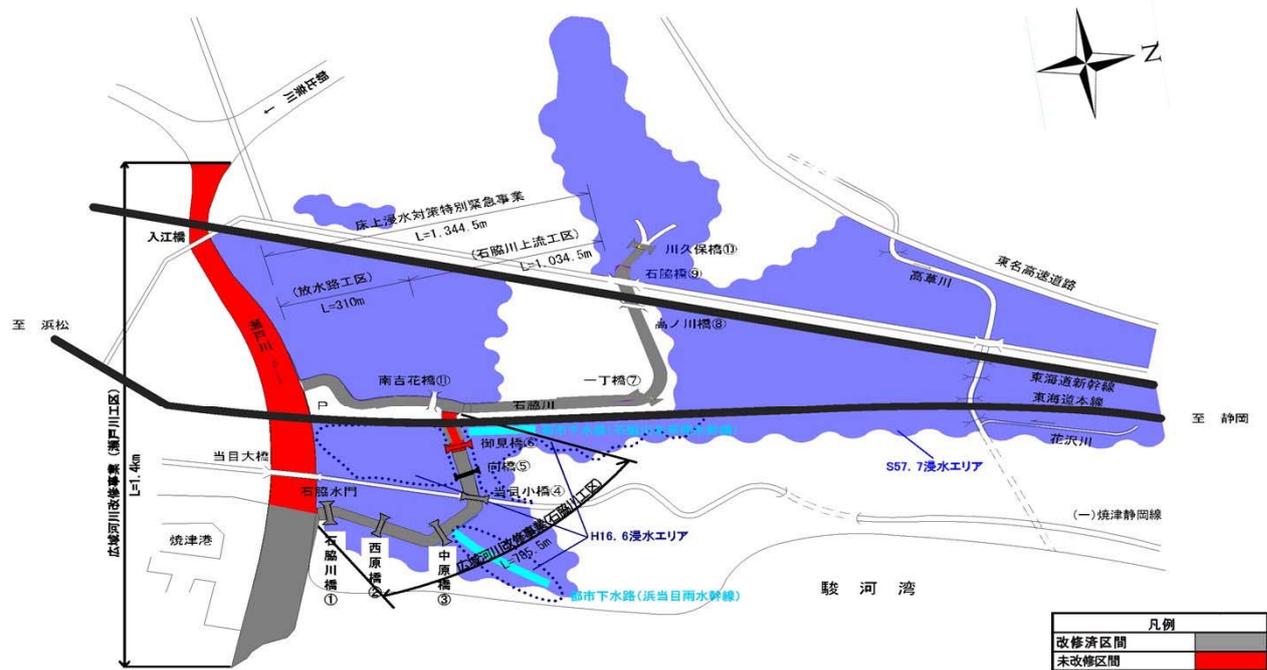
石脇川工区・瀬戸川工区 位置図



流配図

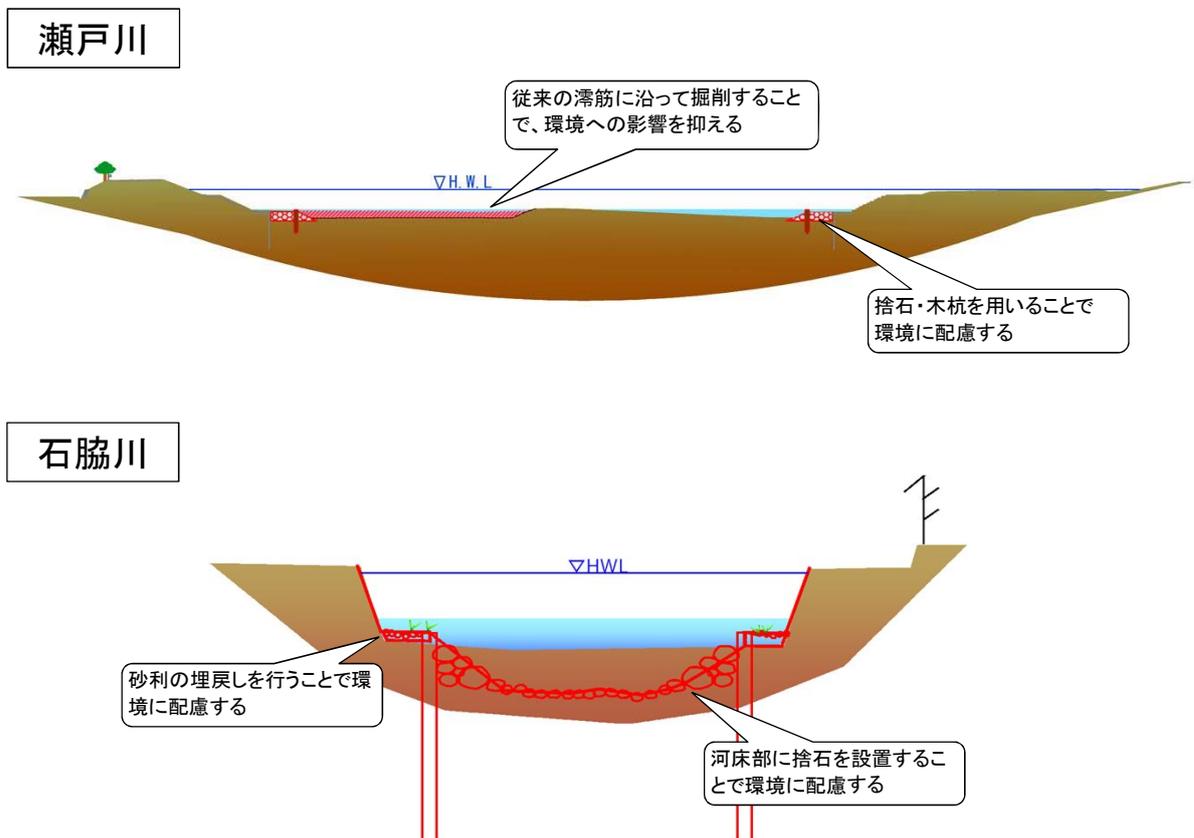


概略平面図

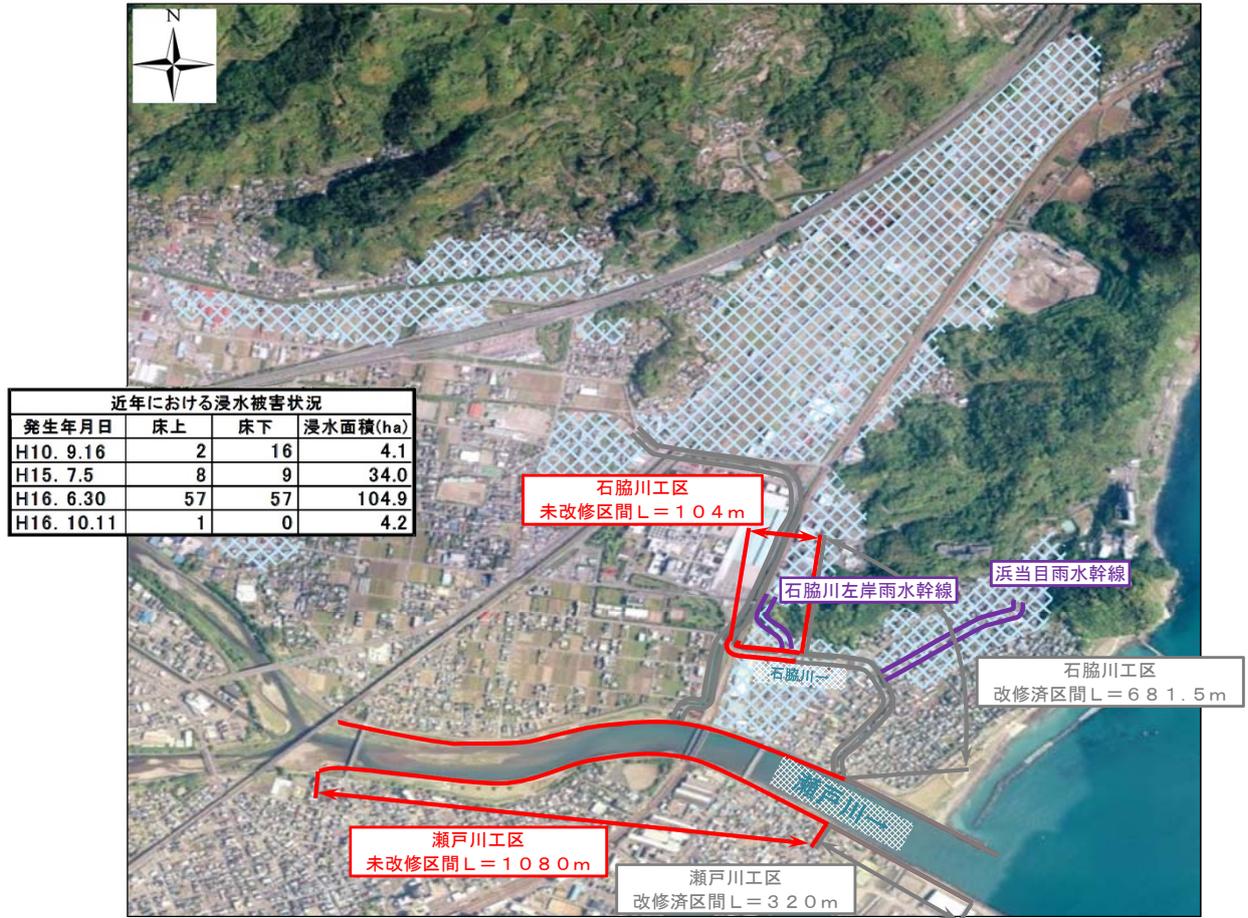


発生年月日	床上	床下	浸水面積(ha)
H10. 9.16	2	16	4.1
H15. 7.5	8	9	34.0
H16. 6.30	57	57	104.9
H16. 10.11	1	0	4.2

標準横断面図



航空写真



浸水被害の状況



改修区間の状況



未改修区間の状況



計画期間延伸の理由

休止していた瀬戸川工区を再開したため、瀬戸川工区の整備
完了年度である平成33年度まで計画期間を延伸する。

